No. 8　2007.10.1

歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団
ホームページ http://homepage3.nifty.com/kokaido/
事務局 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘4-36-21 APT1・2・3-302
TEL/FAX 042-389-5534
宮田太郎（歴史古街道団 団長）

板倉リサさん

ミネハハさん

パルテノン多摩開館20周年記念市民参加企画事業

多摩の万葉時代・防人(さきもり)パレードに参加

古代からのメッセージ「いまこそ、家族の愛、郷土への想いを」

10月6日(土) 15:00～17:00

多摩センター駅前～パルテノン多摩大階段まで　(観覧無料)

主催：(財) 多摩市文化振興財団　後援：多摩市・多摩市教育委員会

主催・企画制作：多摩の万葉時代・防人パレード実行委員会

東京多摩市の文化施設「パルテノン多摩」の開館20周年記念事業として、10月の土・日曜日を中心に(財)多摩市文化振興財団が主催する市民企画の4事業が多彩に行われます。その開幕イベントとして、10月6日(土)午後、歴史古街道団など歴史・環境保護関係8団体で構成する多摩の万葉時代・防人パレード実行委員会が、歴史ロマン溢れる「多摩の万葉時代防人(さきもり)パレード」を行います。当日は、ご家族揃ってお楽しみください。

歴史古街道団は多摩らいふ倶楽部などの8団体で「多摩の万葉時代・防人パレード実行委員会」を結成し、過去2年間実施してきた「さきもりまつり」のイメージを基本にし、宮田太郎団長企画、和田弥一郎さん演出、歌手・ミネハハさんや舞踊家・板倉リサさん(元ミス日本)の友情出演を得て、素晴らしいイベントに仕上がりました。

内容は、かつて国を守る防人(さきもり)として、遠く筑紫(北九州)や対馬に派遣される東国の男達が多摩の横山(丘陵)を越え、再び会えないであろう家族と別れて行くシーンを再現し、その心情を想いつつ現代の家族の絆を考えようという、ロマンと感動に満ちたイベントを準備しています。

防人(さきもり)達の別離シーンで現代の家族愛を考える

歴史古街道団中心の実行委員会で公演

この企画は(財)多摩市文化振興財団がパルテノン多摩開館20周年事業として“歴史がつくる未来のわがまち多摩”というテーマで市民企画を募集。応募した約30団体の中から4企画が採用され、委託を受けた団体が実行委員会を構成して企画・制作及び実演を担当。パルテノン多摩内外で、万葉時代の防人(さきもり)パレード・万葉歌の創作うた劇、多摩の古典舞踊・多摩の民話語りなど4事業を公演するものです。主催＝(財)多摩市文化振興財団、後援＝多摩市・多摩市教育委員会。

企画/多摩の万葉パレード実行委員会
（代表：歴史古街道団団長宮田太郎）
演出/和田弥一郎（mauve代表）　振付/板倉リサ(舞踊家)
MC/小林まどか（フリーアナウンサー）
出演/ミネハハ（歌手）、板倉リサ（舞踊家）、今野耕作(万葉歌研究家)、JUGON、和田隆太郎、歴史シアター学生防人会、多摩らいふ倶楽部、市役所職員、新都市センター開発㈱職員、一般応募者、歴史古街道団団員
音響・照明・装置/（有)ミネティ
衣装制作/実行委員会メンバー　　協力/高津装飾美術㈱

№8

多摩丘陵の風になって歴史散歩

武蔵と甲斐を結ぶ古道を探る

2007年10月からのロマン・ウォーキング　(案内:宮田太郎)

宮田太郎団長と行く秋の探検ロマン

宮田団長の説明を聞く参加者

古街道・探索ウォーキング

●10月8日(月・祝)

『さきもりの道はどこか～幻の古代国道を探せ！(奥州古道・多摩愛宕丘陵編)』

【コース】聖蹟桜ヶ丘駅10:00集合～一ノ宮の渡し場跡～小野神社～宝蔵橋～へっぴり坂～東寺方～昼食（多摩市立体育館レストランほか大型スーパー有）～庚申塚古墳～古代甲州道と奥州古道の辻～愛宕神社と古道跡～愛宕山頂（解散）～多摩センター駅(16:00解散予定、行程約5キロ)

【内容】往きは公費で九州に行った防人も還りは自費のこともあり帰りつかぬ者も多かったようです。再会を夢見ていた我家や故郷を見た時の感激は大きかったことでしょう。その帰路が奥州古道であり、多摩市の愛宕地区の山から武蔵野を眺めたであろう場所を実際に現地に探ります。

古街道・探索ウォーキング

●11月3日(土・祝)

『陣馬街道(案下道(あんげみち))沿いの史跡を訪ねる』

【コース】JR中央本線高尾駅北口改札口前09:30集合～1番バス停、高33系統 09:50発で陣馬高原下（終点）～案下道～(龍泉寺)～口留番所跡～夕やけ小やけふれあいの里(自由昼食)～宮尾神社～浄福寺／浄福寺城～八王子車人形稽古場～武州下原刀鍛冶発祥の地～恩方車庫付近で解散。恩方車庫から高尾駅北口へ3本/時間程度のバス便有り(16:00解散予定、行程約6㎞)

【内容】武蔵国と甲斐国を最短距離で結ぶ陣馬街道(案下道)は戦国時代から古甲州道とともに両国間の主要な道でした。江戸時代には恩方街道ないしは佐野川往還などと呼ばれる武蔵・甲斐間の間道でした。今回は、相模国津久井領に抜ける案下峠(和田峠)への麓にあたる街道沿いに、往時をしのぶ寺社や城跡および武州下原刀鍛冶発祥の地を訪ねます。

古街道・探索ウォーキング

●12月8日(土)

『相模湖小原宿と
千木良(ちぎら)の里に古代甲州道を探る』

(鎌倉古道さとびとの会との共催)

【コース】JR中央本線相模湖駅改札口前09:45集合～慈眼寺と与瀬神社～古墳群～古代甲州道～小原宿本陣～弁当昼食（コンビニ有り・小原宿資料館付近で昼食）～桂川と底沢川の合流点（弁天島）～千木良(ちぎら)の牛鞍神社～古代甲州道～柳馬場の大通寺～月読神社～赤馬古道～桂橋～桂橋バス停～三ヶ木バスターミナル～JR／京王線橋本駅(17:30頃解散予定、行程約5キロ)

【内容】多摩市の聖蹟桜ケ丘近くで多摩川に注ぐ大栗川沿いには、縄文時代に八ヶ岳から黒曜石や文化を運んできた古街道「縄文黒曜石ロード」があり、諏訪湖や甲州国府と武蔵国を結ぶ重要な飛鳥～平安時代の古街道「古代甲州道」があったという自説を、相模湖付近に探り検証していきます。

古街道・探索ウォーキング

●1月13日(日)

『忘れられた鎌倉街道、
「稲城～麻生ルート(是政道)」を探る』

【コース】JR南武線「南多摩駅」改札口前10:00集合～円照寺～大麻止乃豆乃天神社～古稲毛道～ガスト、ココスほかで自由昼食（弁当可）～大道・打越の谷～石無坂の古道跡～日本山妙法寺～よみうりランドバス停～京王よみうりランド駅又は小田急よみうりランド駅（16:00解散予定、行程約5キロ）

【内容】多摩丘陵の様々な山林や住宅街に挟まれて残る僅かな緑地帯の中から、新百合ヶ丘の駅へ、さらに柿生駅近くの鶴見川流域に向けて「鎌倉街道の跡」が残っています。かつて小田急線新百合ヶ丘駅付近において「鎌倉街道伝承」を確認し、「何故こんなところに…」という疑問から始まった追跡調査で発見した「稲城から麻生を結ぶルート(是政道)」を辿り、その痕跡を現地に探ります。開発で消える寸前の広大な緑地が必見です。

共通参加事項

◆雨天の場合は基本的には中止(ただし小雨の場合実施することがあります。朝7時半までに実施か否かを本部事務局(TEL042-389-5534)までお問い合わせ下さい。(それ以降は宮田団長の携帯電話090-7002-3431まで)

◆参加費＝団員700円(ご夫婦は2人で1,000円)
一般は1人1,000円。

◆その他＝雨具持参(晴れでも携帯下さい)、飲み物持参。
昼食は飲食店利用の場合と各自弁当の場合がありますので詳細は各案内参照。

ガイドリーダーによる

史跡探索　ミニウォーキング

共通参加事項
・参加費
　団員/500円
　一般/700円
・申込不要
・弁当・雨具持参

「図師ひと巡り」平成十九年六月三日

■10月21日（日）

『東浦和・見沼通船堀を歩く』

ガイド：奥村　辰三(団員)

【コース】ＪＲ南武線府中本町駅改札口前10：00または JR武蔵野線東浦和駅改札口前11：00集合～10:21 発の電車で移動～東浦和駅(11:00 頃)～見沼通船堀公園～通船堀西側線～水神社～鈴木家住宅～通船堀東側～昼食～木曽呂の富士塚～東側代用用水～自然公園～浦和くらしの博物館民家園～大牧氷川女体神社～清泰寺～大間木氷川神社～東浦和駅（行程、約４㎞。解散予定/JR武蔵野線東浦和駅 15:30 頃）

【内容】団報7号で紹介した小山田与清は見沼通船方でした。その管理対象であった見沼通船堀は、八代将軍徳川吉宗の頃、井沢弥惣兵衛為永によって造られた閘門式運河（こうもんしきうんが＝運河の起点と終点の間の水位差が大きく、船の航行に支障がある場合に閘門をいくつか設置して、閘門の開閉によって水位を一定に保ちながら船を通す仕組み）で、享保 6 年(1731)に開通されました。閘門式運河で有名なパナマ運河の完成は1914年ですので、それより183年も早く造られた運河として一見の価値があり、現地に探索します。

連絡先：奥村辰三（☎042-725-7120）

■11月17日（土）

『古代官道と中世鎌倉街道を比較する』

ガイド：山羽　孝(団員)

【コース】西武新宿線東村山駅東口側階段を下りたところ10：00集合～正福寺(国宝地蔵堂)～徳蔵寺(元弘の板碑)（入館料 200 円）～昼食～推定久米川宿付近・八国山(将軍塚)～長久寺～東の上遺跡(東山道武蔵路遺構発見地)～新光寺（行程、約６㎞。解散予定/新光寺前または西武新宿線航空公園前 15:30 頃）

【内容】東京都と埼玉県境の狭山丘陵には、鎌倉街道上ノ道と古代飛鳥奈良時代の官道東山道武蔵路とが通っていました。今回は、これらに関連する遺跡・遺構を辿りながら両道を比較してみます。また、途中の正福寺では都内唯一の国宝建造物である地蔵堂を鑑賞し古建築を楽しみ、徳蔵寺の板碑記念館に保存されている「元弘の板碑」を拝見し、八国山将軍塚に登り「新田義貞の久米川の戦い」を偲びます。最後に、長久寺の西側から坂を上り新光寺までほぼ一直線に通る鎌倉街道を確認して見ましょう。

連絡先：山羽　孝（☎049-248-9356）

■12月2日（日）

『池上道を歩く』

ガイド：各務（かがみ）　湘一(団員)

【コース】京浜急行新馬場駅北口改札前10：00集合～北品川三丁目～荏原神社～南品川四丁目～ゼームス坂（レモン哀歌碑）～大井町駅(大井関ヶ原）～ニコン通り(古代東海道?)入口～大井三ツ又～品川歴史館（入館料 100 円）～鹿島神社～大森貝塚遺跡庭園(昼食）～大森貝塵碑～山王口～大森駅～八景坂～善慶寺(義民六人衆の墓)～環七通り～大森日赤前（馬込臼田坂通り）～古代東海道という標識～子母沢～妙雲寺～堤方神社～池上本門寺(五重塔、大堂、星亭らの墓)～本行寺～惣門～呑川～東急池上線池上駅（行程、約 10 キロ。解散予定/東急池上線池上駅 15:00 頃予定）

【内容】品川宿から池上本門寺まで約 10 キロの道です。池上本門寺への参詣道路ですが、途中の大井町駅周辺は古代東海道の大井駅想定地でもあります。日本考古学発祥の地である大森貝塚を経て、八景坂を降れば新井宿、義民六人衆の墓があります。谷中通り(環七通り)を越えた付近が旧新井宿ですが、馬込文士村の南端部にも当たります。池上本門寺は日蓮宗四大本山のひとつです。空襲を免れた五重塔の足下に幸田露伴が眠っています。力道山の墓は五重塔から北の方向に歩いたところです。星亨の墓によってから階段を下りると大坊木行寺、池上氏の居館跡であり、日蓮の終焉の地でもあります。池上駅までの道には、仏具店などと共に、くず餅店も軒を連ねております。

連絡先：各務　湘一（☎042-338-8012）

■1月27日（日）

『梶原景時ゆかりの八幡神社と後北条氏の遺構を探る』

ガイド：山崎　善弘(団員)

【コース】ＪＲ中央線高尾駅北口改札前09：30集合～廿里古戦場跡～八幡神社～宗関寺・横地堤～北条氏照の墓～管理事務所（昼食・弁当必須）～八王子神社～松木曲輪～坎井（カンセイの井戸）～本丸跡～管理事務所（行程、約６㎞。解散/管理事務所 15:00 頃予定）

【内容】高尾駅の北側は歴史の宝庫です。まず、北条氏照が滝山城から八王子城を築いて移転する要因になったと推定される廿里合戦の古戦場跡を通り抜け、梶原景時が鶴ヶ岡八幡宮の古い御神体を勧進したと伝わる八幡神社を訪ねます。その後、その昔後北条氏の家臣団屋敷があったと伝わる谷筋に入り、横地堤と呼ばれる土塁跡等の遺構、宗関寺の北条氏照百回忌法要のとき寄進された鐘楼、供養のために建立された北条氏照の墓などをみて深沢山に登り、要害部に遺る後北条氏の山城遺構を探ります。

八王子神社

連絡先：山崎　善弘（☎0422-42-0650）

全国の遊歩道･歴史系さんぽ道整備工事事業者への提言

あなたの街の遊歩道整備は間違っている？！

宮田太郎（古街道研究家）

いま、各地の里道（さとみち。歴史性のある生活道）や古道･古街道の整備自体が、それらの持つ本質や味わい、歴史遺産的価値をむしろ壊す結果になっている。むかしのままのほうがずっと良かった！という声さえ聞こえる危機的な工事計画蔓延の実態に、いま警鐘を鳴らす！

1、間違っている整備工事の「石畳信仰」と「階段信仰」

古道というとすぐに箱根や熊野古道の石畳を思い起こす人は多い。なぜか日本人は石畳が好きである。しかし箱根の幕末期の記録には、石畳で転んで怪我をしたり亡くなった人･馬が後を絶たない状況にあったことが記されている。十四代将軍･徳川家茂の上洛の際に、後に新選組を結成する土方や近藤がお供をし通過した近世東海道は、そのときに大改修されているが、現代人が歩く今日ではすでに荒れて危険がつきまとう。そんな道がなぜ造られたのか…。実はここには画期的な工事の工夫がありながらも時の流れの中で廃れ、変化してしまった結果の姿が隠されている。

私の推測はこうである。箱根の石畳は当初の江戸初期には、石の畳は土の中に埋もれた状態で完成したはずであり、我々現代人のお風呂場のタイルのように、目地が全て埋められて、石の表面は床材の一部となってわずかに見えているか、あるいは完全に埋もれていたのではないか。それが、メンテナンスをしなくなる時期が長ければ長いほど、雨で目地が流れ、むき出しなっていった。つまり、石畳道の使い良さは、実は安定した床材としての地面の中に埋もれた石にあったのである。

階段は不要！（例：藤沢新林公園）
2007年9月14日撮影

したがって現代の遊歩道に石畳を敷くなどとはもってのほかだ。敷くならば上に土を敷き詰めて石の目地が石の表面以上に高く盛り上がるように造らなければならない。

『石畳信仰』はやめにしたほうがいい。ウォーカーの足首や膝への負担も大きい。滑って危ない。ましてメンテナンスが永遠に続かなくてはこの道の意義は無いのである。

現代の『階段信仰』も困った問題である。不要な坂道にやたらに階段が造られている。熊野古道は世界遺産になってから多くの階段が造られ、本来の歩きやすさや景観をそこねてしまった。整備側は大きな間違いをしている。中世から続いてきた「道普請」の基本を忘れ、わざわざお金をかけてあってはならないものを手がけている。階段は高齢化時代の健康づくりには実は反していることが多いのである。歩きやすさを追求しても、歴史･自然景観を味わう歩行を考えても、階段は極力やめて、土や草地の感触を生かすべきだ。

つまり、古代･中世以来の道の整備はこうだった。『道が風雨や通行で荒れると、すぐ周りに落ちている朽ちかけ始めた枝･葉を集めて、道の凹凸をならすがごとくそこに投げ込む』だけなのである。そうすれば大概の坂道もぬかるみも、滑ること無い安全な道に変わった。歩き方も歩幅を狭くして歩けば階段なんてまったく不要だった。

…なんと無駄の無い、理にかなった方法だろうか。最近の木材チップを撒く方法は枝･葉を投げ込むその手法に近いだろう。一番いいのは、そのすぐ周りの自然界のものを利用することなのである。

2、人が歩くための道に舗装材や･砂利を敷いてはならない！

遊歩道整備のもう一つの勘違いは、よその遠い土地の砂利を運んで撒くことである。

なぜいけないのか。それは古道の文化財的価値や風情、土地の清浄なる空気を著しく損なうからである。考古学やフィールドでの歴史散策を体験した人ならすぐに理解できる感覚…つまり昔ながらの土のままだからこそ、道の上の遺跡や

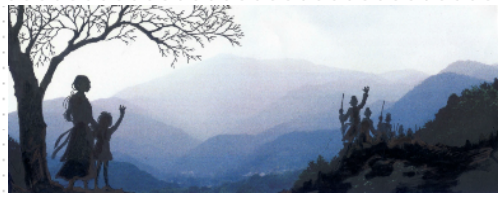
１０月６日（土）の“見る”「防人パレード」に続き、11月23日(祝)には恒例となりました“歩く”「さきもりまつり」を今年も開催します。府中から防人見返りの峠まで紅葉のなかを楽しく歩きましょう！

【集合場所と時間】

A/ロングコース(約6㎞) 08:30
府中大国魂神社正面大鳥居前
B/ミドルコース(約3㎞) 09:30
聖蹟桜ヶ丘駅西口改札前
C/ショートコース(約2㎞) 11:00
永山駅前交番脇公園

恒例！ *今年もやります！*

第３回さきもりまつり
11月23日（金･祝）



午後の部（始）13:00（丘の上広場）～（終）15:00（パノラマ台）

＝まつりの見どころ＝

- ■府中大国魂神社から、多摩よこやまの道”パノラマ台までの「万葉防人見返りの峠ウォーキング」
- ■「万葉防人見返りの峠ウォーキング」最終地点（パノラマ台）で防人の旅立ち･別離のシーンを再現
- ■メイン会場にて「抽選会」、「多摩のむかし野菜販売」ほか

【メイン会場】“丘の上広場”（防人広場）
＜多摩市陸上競技場（多摩市諏訪 4-9）から“弓の橋”を渡った広場＞

遺物がみつかり、歴史の匂いや土地の温もりを感じることが出来る。それはあくまで「その土地の土」がそこにあるからである。ウォーカーは誰でもそうしたことで健康を感じ、土地や道を愛することが出来るのであって、異質な色や匂いの砂利、ましてやコンクリートの破砕材や壊れたタイル・レンガなどの建築廃材はぜったいに撒いてはならない。そこを歩くものは健全なパワーを享受できなくなるばかりか、歴史的感受性を失い、不健康になること間違いないのである。水脈は荒れ、そこから土地の人気（じんき）も荒れ始めるのだ。

土地のものでない砂利を入れたため、コケが枯れ始めた長野・白駒池遊歩道　　2007年8月20日撮影

3、明治・大正時代に始まった近代化施策型の道路整備

建築廃材を投げ込む、あるいはよその遠い土地の砂利を平気で撒くようになったのは明治末期や大正時代からの殖産向上政策、あるいは昭和・戦後の高度経済成長時代以降のことである。今も平気で行われる同様な手法は、今の「人と自然に優しい遊歩道・歩道」の目指す目的からは程遠い。しかし一度撒いたら二度とそれを元に戻すことは不可能に近い。「人気（じんき）が荒れる」というのは、まず道が清浄でなくなり、住人の心にまで波及することである。人間の血脈に近い気脈の流れる山道や古道を清浄に保つこと、これが地域の活性化の手始めであることを整備担当や事業者が気がつかない限り、地域コミュニティーの向上も望めない。

土のままでいい。雑草が生えていていい。付近の枝・葉をこまめに投げ込めば、道がぬかったり、滑ることはない。むかし流「人間の歩む道・整備（古式・道普請）」に学べ

（2007.9.記）

創立三周年に寄せて

宮田太郎
（歴史古街道団　団長）

むかし道を歩き、豊かな心に満ちた先人たちの時代風景を想像し、
昔も今も未来もなんら変わらぬ同じ時間空間にあることを実感するとき
言い知れぬ安心感と幸福感と感動が湧き溢れる
私たちは決して一人ぼっちではない
多くのむかしのものに支えられ、励まされていることを知り
仲間とともに歩き、丘の上から眺め、ささやかな幸福に目を細める
歴史風土の中に暮らそう　歴史に恋をしよう
自分と時代の積み重ねに、感謝の気持ちを今、伝えよう

歴史古街道団は、私たちが生活する多摩地区を中心とした地域に埋もれている歴史的な古道や古街道・遺跡・史跡を発掘研究することにより、地域への愛着を深めるとともに、貴重な郷土史や自然を守り・保存し後世に伝えようという仲間達が、2004年10月9日に結成した団体（会員160人）です。

私達は大昔から連綿と伝えられてきた先人達のたおやかな心と豊かな知恵を、ゆっくりと古道を歩きながら肌で感じ取り、遺跡を訪ねながら歴史を学習し、その成果を「新しいスタイルの町づくり」へ生かしたいと考えています。

遠い昔に先輩たちが築いた貴重な歴史文化財が、いま厄介者扱いされている現状を改めるためにも、今のままでは破壊され、失われようとしている貴重な町の史跡や遺跡、伝説に光をあて、再び息を吹きかける「文化財ルネッサンス運動」を多摩の地から起こそうではありませんか…。“歴史の道”は単なる交通の手段ではなく、悠久のロマンを想い出し、私たちに元気を与える不思議な力を持っているのです。
さあ、あなたも明日から一緒に実体験ウォークに出ませんか！

2007年9月30日

略　歴 1959年生。多摩市出身。玉川大学卒。古街道研究家。歴史古道まちづくりプランナー、朝日カルチャーセンター（新宿校・横浜校・湘南校）、クラブツーリズム、多摩らいふ倶楽部、NHK学園など専任講師多数。
著　書 『新視点・日本の歴史(中世編・共著)』（新人物往来社）、『街道で読み解く日本史』（青春出版）、『鎌倉街道伝説』（ネット武蔵野）

旅　秋の旅行案内（講師：宮田太郎）　～海陸古道研究会～　●申込/問い合わせ：042-389-5534（宮田）

■朝日カルチャーセンター新宿・協力旅行事業■
～多摩丘陵・鶴川香具山・神倉家ルーツの謎解きの旅～
熊野みちゆき三山と古道探索の旅
10月16日（火）～18日（木）2泊3日
●参加費 96,000円（古街道団員特別価格）
●定員：先着25名　●申し込み〆切：10月8日（月）
☆熊野と多摩の義経支援部隊伝説の深いつながりを探っていく旅☆
1日目＝中辺路ゆっくりウォーク（瀧尻王子～高原熊野神社～継桜王子・秀衡桜～川湯温泉（泊）
2日目＝発心門王子～熊野本宮～大斎原～新宮速玉大社～徐福公園と飛鳥神社～那智勝浦温泉（泊）
3日目＝神倉神社とゴトビキ岩(天磐楯)～那智大社と飛瀧権現・那智の瀧

■多摩らいふ倶楽部・共催旅行事業■
～多摩の防人が立った辺境の島～
壱岐・対馬の海神わたつみ神話と遺跡を探る
11月27日（火）～29日（木）2泊3日
●参加費 127,500円（古街道団員特別価格）
●定員：先着30名　●申し込み〆切：11月13日（火）
☆多摩のあきる野の地名や阿岐留神社の名と対馬の阿比留氏の関係の謎＆東京湾・相模湾に来た海人たちの足跡・ルーツを探っていく旅☆
1日目＝壱岐島～郷土館～亀岡城～遣新羅使ゆかりの地～原ノ辻遺跡～興神社＊夜は住吉神社の夜神楽見学　2日目＝黒崎灯台と高麗仏～猿岩～大型古墳群と鬼の岩屋～風土記の丘～対馬へ移動～大塔宮陸良親王墓～宗家と阿比留氏分布地～万関橋～和多都美神社
3日目＝神功皇后八幡神社～万松院・宗家廟～資料館～お船江

ミニ・ウォーキングを振り返って

ガイドリーダー養成を目的に昨年10月から始めたミニ・ウォーキングですが、ほぼ1回/月のペースで継続的に開催しています。

2年目を迎えるに当たり、ガイドリーダーの方々に案内を終えた感想を書いていただきました。

・・・・・・・・・・・・・・

平成18年10月8日(日)

狛江の古墳巡り (38人)

＝名刺の功徳＝

ガイド：奥村　辰三

昨年(平成 18 年)、年度初めの会合において、各部門に分かれて話し合うことになり、古街道団の研究部として何か新しい事を実施しよう、との中丸さんの発案で、ミニ・ウォークを実行する話になった。以前2回ほど行った狛江の古墳なら、ということで、最初槍玉に上がったのが私だった。

初めてのミニ・ウォークを実施することになって、さて、宮田団長のように弁が立つ訳ではなく、説明も満足にできないような者が、皆様を連れて案内出来るのかどうかが、心配だった。しかし、案ずることはない。この団には強い味方がいたのだ。下見に、中丸・藤井・新井さんが一緒に行ってくださることになった。

この下見で一番役に立ったのが、庄司さんに作っていただいた名刺だった。東塚などでは、屋敷内に古墳があるので、これまでは、外から眺めただけだったが、今回は堂々と東塚を訪れて、「実は私たちはこういう者です」と名刺を差し出し、「今日は下見で来ていますが、来る日曜日には大勢の人たちを連れて来ますので、古墳を見せていただくことは出来ないでしょうか」など、古街道団の話をしている内に、相手も団を信用してくれたのか、了承を取り付けることが出来た。これ即ち名刺の賜と感謝せざるを得ない。

本番のときには、中丸さんなどの肝煎りで、若干のお礼をした。

下見のとき訪問して、「このお寺には、江戸中期より廻し地蔵尊があるそうですが」、との話をすると、「はい、本堂に安置しています」とのこと。当日、私たちのウォークが日曜日であったので、泉龍寺まで経塚の鍵を借りに行かねばならなかったが（経塚の鍵は、ウィークデーは塚の横のマンションの方が預かっているが、日曜日は泉龍寺にある）、中丸さんが朝早く行って、鍵を借りてくださった。その折りだろうと思われるが、上手に取り計らって下さって、「この泉龍寺が最後になります」と説明して、本堂に入れていただけることになり、お話を伺ったり、本堂に安置されている地蔵菩薩を拝観することができた。

若干のお礼と、団が推奨するマナーはもとより、中丸さんはじめ仲間の協力があればこそ、曲がりなりに出来たことと共に、この場合、名刺の偉大なる力を得て、つつがなく、このミニ・ウォークが無事完了したことを、この紙上を借りて各位に厚くお礼申し上げたい。

平成18年12月3日(日)

拝島宿場巡り (40人)

＝何故いま拝島宿なのか＝

ガイド：中丸　三次

現在の拝島宿は、日光勤番を命ぜられた八王子千人同心がその任務のため、八王子から松山、佐野を経て日光入りする片道40里の道程を3泊4日で勤務に就けるため、拝島分水の開鑿された元文5年、建設したのであろうと考えられている。

旧拝島宿は、後北條氏が小田原や川越への往還の継ぎ立てに使っていた宿場であり、平村(現、八王子市平町)から大神村(現、昭島市大神町)を結ぶ「平の渡し」で多摩川を渡り田中村から奥州古道に入る拝島ルートが開かれていたと考えられる。

後北條氏は小田原を中心にその勢力を拡大し、北西武蔵を支配し、伝馬制を設けて各支城を結んだことは『新編武蔵古文書』でも伺い知ることができる。

また永禄元年、中世以来の宿場の改編が行われたであろうことが木曽宿(町田市)に残る「石川家禄」からも伺える。

「永禄元年午年下宿より上へ上申候」(石川家禄)

後北條氏の所領地支配の特徴は、他

「拝島宿場巡り」　啓明学園へ向かう多摩川河原　2006.12.3.

＝第3回定期総会開催＝　2007年5月27日(日)13:30～

第3回定期総会が、去る5月27日（日）多摩市立関戸公民館大会議室に於いて出席者47名、委任状提出者69名で開催されました。昨年度の活動報告を行うとともに、今年度の活動方針が概略次の通り提案され承認されました。また、4人の役員交代が承認され、総会直後の役員会において役員の役割分担を決定、新体制として発足しましたのでよろしくお願いします。

【2007年度の活動方針】

活動の目標を、今年度からは全国のまちへ向けて「古道でつなぐまちづくり」を発信し、新しい地域交流ネットワークの確立をめざすこととします。次に、歴史資源(古道・遺跡・史跡・伝承)をまちづくりに活かすためにウォーキングや旅行、講演会・学習会・研究会などの啓蒙活動を推進し、多摩丘陵に奇跡的に残された多摩古道と多摩よこやまの道、それに沿った貴重な遺跡・史跡・歴史的環境の保全に努めることを目標とします。

◎歴史古道の保全と活用

「さきもりまつり2007」の開催、多摩丘陵の古道を探索し歴史と自然を守る活動の推進、多摩につながる道を探る、ガイドリーダーによるミニウォーキングの実施。

◎啓蒙活動と地域交流

ウォーキング・マナー向上を目指す活動の推進、地域の文化イベントへの参加と交流、学習会・研究会の開催、パ

の領主に仕えていた武将でも、後北條氏に忠誠を尽くす武将には、荒地を開墾させ知行地として与え、宿場や市を立てさせている。
　北西武蔵の支配を確立した後北條氏は、滝山城の対岸にある拝島を特に重要な拠点と考え、民衆安定のため宗教施設が多数建設された。
　かく、「多摩は後北條氏の影響を無視して語れない」の思いから拝島を選んだ。

平成19年1月7日（日）

勝五郎再生を辿る　(30人)

ガイド：中丸　三次

　武州多摩郡中野村(現、八王子市東中野)に住む百姓源蔵の伜勝五郎は、8才になったある日、"おいらは程久保で生まれて、なめえ(名前)は藤蔵だったんだけんどよう、6つのときに庖瘡で死んで、5年後にこのうちに生まれけえ(帰)ってきた"と言った。この地方の葬儀は「講中弔い」と言って、講中の全戸で会葬するが、幼児が亡くなった時は「組合弔い」といって五人組だけで行うのがしきたりである。
　晒の死装束に着替えさせると僧侶が足の裏に「梵字」と「誰々命再生」という文字を書いた。この慣習は昭和初期まで続き、再生が信じられ、土葬であった。
　再生記は、現代人には理解し難いことであり、下田九一氏も「鼻をつままれても解らないほどの夜の闇に包まれた谷戸村での出来事」として疑念も覗かせている。
　勝五郎再生咄を耳にし、露姫という息女の夭折に会い、悲嘆に暮れていた池田冠山は、霊魂の不滅を信じ露姫の再生を願い中野村に向かった。この道は江戸の文人墨客がしばしば訪れた名所、松連寺(現、百草園)に近く、気軽に訪問したであろう。
　冠山は大名駕籠で松連寺道を松連寺(百草園)に至り、三沢から程久保の藤蔵の生家に寄り、源蔵の家に泊まり、勝五郎親子もしばしば江戸を尋ねているが、一宮の渡しから稲毛道(川崎街道)、程久保に入り図師道から藤蔵の生家のある、谷津入りに至ったであろうコースを今回は歩いた。

平成19年4月14日（土）

高月城から滝山城へ　(35人)

ガイド：金子　功

滝山城の引き橋　2007.4.14

　うららかな絶好のウォーキング日和の中、35名の参加を得てミニ・ウォークをスタート。実施に先立ち、拝島駅の集合地から解散場所の滝山城址下バス停まで、中丸・新井・藤井の皆さんと下見を行い望みましたが、年度替わりで予定していたバスの経路・ダイヤの変更があり高月までバスが行かないことがわかり大あわて。結局、秋川を渡る手前の小川で降り、高月城址まで歩くことにした。川こそ橋で渡ったが古道跡らしい道を辿り八幡神社にも寄ることができたのでそれなりに良かったかとは思うが反省点である。
　高月城ではこの時期の植物の生長を甘く見てしまい、下見では簡単に歩けた堀跡・土塁跡が藪こぎ状態になっていて、皆さんに藪の中を歩いて貰うことになってしまった。桜の名所として有名な滝山城は人の出を懸念していたが、桜のピークを過ぎていたとはいえ、逆にほとんど人がいない状態で、数千本の桜の木から若葉が芽吹き、花とは違った景観を楽しめた。
　城跡はともかく、地域・歴史のことをほとんど知らないのに担当することになり、準備に結構な時間が取られた。どんな情報がどこにあるのかもわからず、Webで検索するなど手探り状態ではじめ、地域史については多摩市立図書館(市役所)にあった『たまのあゆみ』(全巻そろっている)、八王子市史などが参考になることを知りホッとした。また、東京都庁内にある都民情報ルームには東京都教育委員会が発行した各種の調査報告書が置いてあり、閲覧・コピーが可能で、在庫が有れば購入もできる事を知った。
　初めてのガイドでとまどいながらのウォーキングでしたが最後までおつきあいいただきありがとうございました。

☆（ ）内数字は参加者数

ミニ・ウォーキングを振り返って

　昨年10月から始まったミニ・ウォーキングは地域密着ガイドリーダーの案内で好評のうちに1年間の予定を終了しました。今後の予定は3ページに案内していますので奮ってご参加下さい。
　「ミニウォーキングを振り返って」の続きは、次号から随時掲載していきます。参加出来なかった方は様子だけでもお楽しみ下さい。

次号掲載予定

○2007.5.13（日）境川源流域の鎌倉みち
○2007.6. 3（日）図師ひと巡り
○2007.6.24（日）坂東三十三観音、一番札所杉本寺より二番札所岩殿寺への巡礼古道
○2007.7. 8（日）葛飾柴又帝釈天から矢切の渡しへ戦国の下総国府台合戦痕跡を歩く

於：多摩市立関戸公民館・大会議室

ブリシティ活動の推進、歴史古街道でつなぐフットパスの輪の構築。
◎歴史古道・遺跡・民俗の調査研究
調査研究活動と発表、歴史研究誌の発行等の諸活動を進める。

総会風景
於・関戸公民館

2007年度体制表

所属	氏名	所属	氏名
団長	宮田　太郎	調査研究部	中丸　三次
運営本部長	庄司健次郎		小菅　勲
事務局	三好　一雄		小林　清三
	八木原杲子		新井　淳子
	有我 ヨリ子		斎地カズエ(兼)
企画部兼会計	庄司健次郎(兼)		奥村　辰三
	石井　卓治	地域交流部	田中　次雄
	斎地カズエ		田口　俊弥
	平　二郎	ウォーキング部	中丸　三次（兼）
広報部	金子　功		浜野　千秋
	遠藤　邦江		佐藤　文俊
	須永　洋子		藤田　一彦
顧問	藤田　道男		八木原杲子(兼)
	今野　耕作		新井　淳子(兼)
会計監査	河村　重雄		

2007年秋～冬の歴史ロマン古道予定表（一部計画中を含む）

注）問合せ欄；(団)＝歴史古街道団、【協力団体】(里)＝鎌倉街道さとびとの会、(海)＝海陸古道研究会。
探索・学習テーマ欄；歩＝ウォーキング、学＝講演会／学習会、準＝準備会、ミニ＝史跡探索ミニ・ウォーク

月日	集合場所･時間	探索・学習テーマ	参加費	申込み	問合せ先
10月３日(水)	多摩ｾﾝﾀｰ駅前 パルテノン多摩内ワークショップルーム 13:30	【準】多摩の万葉時代・防人パレード準備会	－	－	(団)宮田 TEL042-389-5534
10月４日(木)	多摩ｾﾝﾀｰ駅前 パルテノン多摩内ワークショップルーム 13:30	【準】多摩の万葉時代・防人パレード準備会	－	－	(団)宮田 TEL042-389-5534
10月５日(金)	多摩ｾﾝﾀｰ駅前 パルテノン多摩内ワークショップルーム 13:30	【準】多摩の万葉時代・防人パレード準備会	－	－	(団)宮田 TEL042-389-5534
10月６日(土)	パルテノン多摩周辺15:00	【イベント】多摩の万葉時代・防人パレードとミネハハ・コンサート	－	－	(団)宮田 TEL042-389-5534
10月８日 (月・祝)	京王線／聖蹟桜ヶ丘駅 西口改札前 10:00	【歩】さきもりの道はどこか～幻の古代国道を探せ！〔奥州古道・多摩愛宕丘陵編〕	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
10月16～18日 (火～木)	羽田空港 09:05	【旅行】熊野みちゆき三山と古道探索の旅 朝日カルチャーセンター新宿・共催。 ２泊３日旅行 講師：宮田太郎。先着25名	96,000円 (参加費)	10月８日〆切	(海)宮田 TEL090-7002-3431
10月21日(日)	府中本町駅改札口前 10:00 又は 東浦和駅改札口前 11:05	【ミニ】東浦和・見沼通船堀を歩く	団員:500円 一般:700円	当日	(団)奥村 TEL042-725-7120
11月１日(木)	京王線／北野駅 改札前 10:00	【歩】長沼丘陵と野猿峠の古道を歩く	800円	当日	(里)遠藤 TEL042-376-1122
11月３日 (土・祝)	ＪＲ中央本線／高尾駅 北口改札口前 09:30	【歩】陣馬街道（案下道）沿いの史跡を訪ねる	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
11月17日(土)	西武新宿線／東村山駅東口側 階段を下りたところに 10:00	【ミニ】古代官道と中世鎌倉街道を比較する	団員:500円 一般:700円	当日	(団)山羽 TEL049-248-9356
11月23日 (金・祝)	府中大国魂神社大鳥居前 08:30 聖蹟桜ヶ丘駅西口改札前 09:30 永山駅小田急側改札前 11:00	【さきもりまつり２００７】	500円 (中学生以下無料)	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
11月27～29日 (火～木)	羽田空港 06:30	【旅行】壱岐・対馬の海神わたつみ神話と遺跡を探る。多摩らいふ倶楽部・共催。 ２泊３日旅行 講師：宮田太郎。先着30名	127,500円 (参加費)	11月13日〆切	(海)宮田 TEL090-7002-3431
12月２日(日)	京浜急行電鉄／新馬場駅 北口改札前10:00	【ミニ】池上道を歩く	団員:500円 一般:700円	当日	(団)各務 TEL042-338-8012
12月８日(土)	ＪＲ中央本線／相模湖駅 改札口前 09:45	【歩】相模湖小原宿と千木良(ちぎら)の里に古代甲州道を探る （鎌倉古道さとびとの会と共催）	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)(里)宮田 TEL042-389-5534
12月13日(木)	聖蹟桜ヶ丘付近を予定 18:00～20:00	【忘年会】各イベント開催時に申し込む。又は氏名・電話番号・忘年会参加と明記してＦａｘ	4,000円程度	12/８までに	(団)宮田 Fax042-389-5534
１月13日(日)	JR南武線／南多摩駅 改札口前 10:00	【歩】忘れられた鎌倉街道「稲城～麻生ルート（是政道）」を探る	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
１月27日(日)	JR中央線／高尾駅 北口改札前09:30	【ミニ】梶原景時ゆかりの八幡神社と後北条氏の遺構を探る	団員:500円 一般:700円	当日	(団)山崎 TEL0422-42-0650

入団のご案内

団員には次の種類があります。
1、個人団員（個人） 2、賛助団員（団体･法人･個人）
個人の年会費は 3,000 円(4月1日～翌年3月31日)
但し、10 月以降入会は年会費 1,500 円（半期分）
賛助団員は 10 口以上で入団登録となり、優先的に提携、事業のお手伝いをさせて頂きます。
団報を年3回、その他臨時お知らせ号など送付します。
『研究会誌(誌名未定)』が発行された際には、新たに研究団員と会誌購読団員も出来る予定です。

【お申し込み方法】
郵便振替用紙の申し込み欄に必要事項をご記入の上、年会費(3,000 円)をお振込みください。(10月以降1,500円)
尚、ご夫婦･ご家族で入団の場合は、家族会員として1口分で OK です。
（例）家族会員がご夫婦の場合は 2 人で会費 3.000 円

☆郵便振込口座番号/00140-7-445195
☆口座名/歴史古街道団

※入団等に関するお問い合せ ☎070-6555-6362（庄司）

ちょっと気が早いけど“忘年会”のお知らせです！

●日時：12月13日（木）18：00～20：00予定
●会費：3,500円～4,000円 ●定員：35名(申込〆切 12/8)
●場所：聖蹟桜ヶ丘駅付近を予定
●申込：各イベント開催時受付、または、事務局･宮田宛に氏名･電話番号･忘年会参加と明記の上 FAX。
FAX＝042-389-5534（宮田）

編集後記 今年も暑い夏でしたが朝夕の空気に秋の気配が漂うこの頃です。団では現在、10 月6日(土)に開催のパルテノン多摩行事、「防人パレード」の準備に大忙しです。11 月 23 日(祝)には恒例の「さきもりまつり」も控え、どちらの行事も楽しさ請け合いです！皆さん、是非ご参加下さい！

編集責任：歴史古街道団広報部（河村・金子・遠藤）

【発行】歴史古街道団
事務局：〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 4-36-21 APT1･2･3-302
宮田太郎（歴史古街道団団長） TEL/FAX 042-389-5534
http://homepage3.nifty.com/kokaido/